

## 日本分析化学専門学校 議事録

校長	副校長
受付 20.8.14 校長	山口 副校長

## 令和2年度 学校関係者評価委員会

1 - 12 頁

日 時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00											進行	議事録	記録	
出席者	出	出	出	出	出	出	欠	出					渡邊	渡邊	渡邊
	梅川雅章	内田敬	大原一浩	濱田妙	長田芽生	重里徳太	尾崎信源	渡邊快記					渡邊	渡邊	渡邊
No.	項 目	審 議 経 過											担当	期限	
1	開会	本校渡邊副校長より開会の挨拶がなされ、令和2年度 日本分析化学専門学校学校関係者評価委員会が開会した。													
2	委員紹介	<p>渡邊副校長より、本委員会の全委員の紹介がなされた。  →資料・委員名簿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅川雅章 委員（分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定課長補佐）</li> <li>・内田 敬 委員（企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長）</li> <li>・大原一浩 委員（高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭）</li> <li>・濱田 妙 委員（在校生・卒業生保護者）</li> <li>・長田芽生 委員（卒業生・東洋サクセス株式会社）</li> <li>・重里徳太 (校長)</li> <li>・尾崎信源 (副校長)</li> <li>・渡邊快記 (副校長)</li> </ul>													
3	校長挨拶	<p>重里校長より、委員会開催にあたり以下の挨拶および学校の現状報告があった。</p> <p>→資料・高等教育の修学支援新制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の3つのポリシー</li> <li>・委託事業成果報告書冊子</li> <li>・遠隔授業の取り組み</li> </ul> <p>①文科省広報、②学生評価アンケート</p> <p>コロナ禍が収束していない状況にもかかわらず、また本日は雨にもかかわらず、本校の学校関係者評価委員会に全員の皆様方にご出席いただき、まず冒頭に厚く御礼申し上げる。本来であれば、この委員会ももう少し後で実施したいところではあるが、職業実践専門課程の要件として、ある程度期日が決められているため、本日の実施となったことをご容赦、ご理解いただきたいと思っている。</p> <p>本日来校され、お気づきかと思うが、現在、こちら側の校舎は耐震工事、西側に新校舎を建てており、改修工事の真っ最中である。本日は、内装工事が終了した教室に来ていただいた。しかしながら、今後、机やイスも新品になる。黒板もすべて電子黒板にということになり、ITC化を図り、来年3月の竣工を目指しているところである。卒業生の長田さんが来られているが、在籍当時よりも相当美しくきれいで、ゆとりもある環境のなかで授業が受けられるようになっていっている状況である。</p>													

&lt;次頁に続く&gt;

日 時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00										進行	議事録	記録			
	出	出	出	出	出	出	欠	出								
出席者	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記				渡邊 快記	渡邊 快記			
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限		
3	校長挨拶 (前頁の続き)		<p>もう一つコロナ禍での本校の対応について報告させていただく。残念ながら入学式は中止とした。また、本校では入学式のあとすぐに「一泊オリエンテーション」という、学校と学生、あるいは学生間のコミュニケーションを図る行事で、2年間という短い期間の中で、「社会人」として育て上げる過程で、重要な教育の指針を示す、大切な一歩である大きな位置づけの行事を中止せざるを得なかった。授業の進捗は、予定通り4月の授業開始日から遠隔授業を開始できた。当初は遠隔授業の計画など、全くなかったが、短時間で遠隔授業ができる最低のインフラだけを整備し、常勤非常勤に関わらず、すべての授業を遠隔授業という形で実施できた。公立の中学校、高校では、夏休みが若干短縮になる学校もある状況だが、本校は今のところ予定通り夏休みを学生に取らせるスケジュールで進んでいる。</p> <p>4月から2か月は遠隔事業を実施し、6月からは、分散登校と遠隔授業を並行し実施した。ようやく7月1日から通常の体制に戻したという状況である。特に6月からの分散登校の際は、手指のアルコール消毒はもちろん、靴の裏の消毒、入校時の体温測定、実験室では全学生がフェイスシールドと手袋の着用を義務付け、相当暑い中で実験を実施し、学生には不便をかけたが、7月からは、マスクのみの着用義務があるが、フェイスシールドに関しては任意ということとした。学生たちの協力もあり、遠隔授業も含め、今のところ大きなマイナス点はなく進んでいる。保護者のご代表として、濱田君のお母さまに来ていただいているが、もしかするとご子息の不満があるかもしれないが、そのあたりは後ほどご意見として頂戴できればと思っている。</p> <p>1) 高等教育の修学支援新制度について</p> <p>今年度4月より高等教育の修学支援新制度が始まった。支援対象は大学、短大、高等専門学校、専門学校。専門学校も高等教育の修学支援制度、無償化のスキームの中に入っている。世帯の収入の条件があり、その金額ごとに段階的に支給額が決定される。270万円以下の世帯は、全額支給される。対象となる学校については、実務経験のある教員による授業を単位数の一定割合以上配置する必要があるなどの条件があるが、本校も審査を受けて指定された。専門学校では、全国では、62.4%であった。認可要件は、大学等が有利である。逆に言えば、認可を受けた専門学校は、大学と同程度の基準を超えている学校という言い方もできる。認定受けることができなければ、経営に直結する問題である。お金に困っていないなくても、認定を受けている学校の方が信頼を得られることがある。この認定基準にもこの学校関係者評価委員会開催が含まれるので、改めて皆様に感謝したい。</p>													
	<次頁に続く>															

## 令和2年度 学校関係者評価委員会

3 - 12 頁

日時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00							進行	議事録	記録			
出席者	出	出	出	出	出	欠	出						
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記		渡邊 快記	渡邊 快記		
No.	項目	審議経過									担当	期限	
3	校長挨拶 (前頁の続き)	<p>2) 本校の3つのポリシーについて</p> <p>そもそも大学では、高大接続改革に伴って、3つのポリシーを公表することが義務付けられているが、専門学校業界でも3つのポリシーをちゃんと設定して世の中に公表するという運動展開がある。3つのポリシーとは、「募集方針」、「教育目標」、「到達目標」であり、最終的に到達する目標、学校を卒業したらどのようになるのか、ということを可能な限り定量化できる数値として公表しようというものである。大学よりどちらかというと専門学校は一段低く見られていることがあり、そういうものの解消するため、専門学校の質の向上のために、必要ということで運動展開してきた。資料の冊子やリクルートの記事に、校長が登場しているのは、こういった運動を専門学校業界で行おうといったのが校長だからである。本校の3つのポリシーは、「化学技術知識」と「実務実践力(いわゆる社会人基礎力)」の両方を育てるものである。</p> <p>①募集方針</p> <p>「化学技術知識」としては、化学や生物、実験への興味・関心を持つこと。「実務実践力」として、挨拶などの基本的なコミュニケーション能力を身に付けること。入試の判断材料ではない。</p> <p>②教育目標</p> <p>「化学技術知識」としては、「到達目標」を達成するために、「三実一体教育」を実施。また、「カリキュラムフロー」、「シラバス」、「コマシラバス」など教育内容の見える化をする。「実務実践力」として、授業、実験以外の学校行事で、人間性を高める。</p> <p>③到達目標</p> <p>目標を10個、数値化してこれまでの結果とこれから目標を公表する。「化学技術知識」に対しては、目標1~4を、「実務実践力」に対しては、目標5~10を設定した。</p> <p>目標1: 関連分野就職率100%</p> <p>目標2: 国家資格「危険物取扱者(甲種・乙種)」の取得</p> <p>目標3: 国家資格「化学分析技能士3級」の取得 および2年生全員受験</p> <p>目標4: 分析機器の操作・理解(1年修了時)</p> <p>目標5: 「化学知識・技術修得度」の向上</p> <p>目標6: 「自己を管理する力」の向上</p> <p>目標7: 「職業人としての姿勢や考え方」の向上</p> <p>目標8: 「協力して働く力」の向上</p> <p>目標9: 「一つのことを達成する力」の向上</p> <p>目標10: 公的資格「ビジネス能力検定3級」の取得</p>											

<次頁に続く>

日 時	令和2年7月17日（金） 15:00 ~ 17:00										進行	議事録	記録		
出席者	出	出	出	出	出	出	欠	出					渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記							
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
3	校長挨拶 (前頁の続き)		<p>3) 文部科学省 公募委託事業について</p> <p>昨年度に引き続き、「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」に採択され、本校は、専修学校リカレント教育総合推進プロジェクトのうち、「e ラーニングを活用した化学分野学び直し講座実施モデル構築事業」という社会人の学び直しの事業に取り組む。昨年度は、実証講座として、約150名の方が受講された。今年度は、3年目として取り組んでいく。</p> <p>4) 遠隔授業の取り組みについて</p> <p>先ほど説明した遠隔授業について、文部科学省の広報誌に遠隔授業の好事例として本校が紹介され、その記事の中でも本校をトップで紹介していただいた。広報誌だけでなく、実は動画も公開されており、こちらでも動画でもトップで取り上げられた。</p> <p>→該当の動画を流して紹介した。</p> <p>文部科学省がかなり多く取り上げてくださり、様々な方面で、好事例として使ってくださいました。また、添付させていただいたアンケートは、結果もとてもよかったです。それよりも3日間実施で回収率が、98.5%ということが非常によかったです。これは専門学校の良さともいえる。前期すべて休校にする大学がある中、工夫すればできるということを申し上げたい。</p> <p>ただし、後半になるにつれ、リアルタイムの受講率は減少してきて、60%前後になることもあった。やはり慣れない環境で学生も疲弊したとも考えられる。これは今後の課題である。</p> <p>補足として、このような状況下で、国からの学生支援緊急給付金について、当然専門学校も対象となり、94名申請し、84名は受給できた。全員ではなかったが、こういった国の施策を利用できたことは、本校とってもうれしいことである。</p>												
4	委員会の位置づけと目的		<p>渡邊副校長より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。</p> <p>→資料・職業実践専門課程の認定状況（文部科学省報道資料）        • 専門実践教育訓練給付制度（厚生労働省作成資料）        • 職業実践専門課程制度と本校学科との関係</p> <p>1) 職業実践専門課程について</p> <p>高等教育における職業実践的な教育に特化した新たな枠組み（専門職大学等；2019年導入）づくりに向けた専修学校の専門課程における先導的試行の中で、企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身に付けられるように教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に取組む専門課程を文部科学大臣が認定する制度で、平成26年度からスタートしている。</p>												

日 時	令和2年7月17日（金） 15:00 ~ 17:00								進行	議事録	記録		
出席者	出	出	出	出	出	欠	出				渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記					
No.	項 目	審 議 経 過								担当	期限		
4	委員会の位置づけと目的 (前頁の続き)	<p>職業実践専門課程に認定された学科の主要な特徴は以下の5つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①企業等が参画する「教育課程編成委員会」を設置して、カリキュラムを編成している。</li> <li>②企業等と連携して、演習、実習等の授業を実施している。</li> <li>③企業等と連携して、最新の実務や指導力を習得するための教員研修を実施している。</li> <li>④企業等が参画して、学校評価を実施している。</li> <li>⑤学校のカリキュラムや教職員等についてホームページ等で情報提供している。</li> </ul> <p>当委員会は、上記④を担う委員会である。</p> <p>2) 職業実践専門課程の認定状況</p> <p>令和2年3月25日時点で、職業実践専門課程に認定された学科数は全国で3,098学科であり、全体の41.3%となっている。また、職業実践専門課程を置く学校数は2,805校中1037校で全体の37.0%という状況である。</p> <p>認定状況について、重里校長から以下の補足があった。</p> <p>地域別の認定数として、最も多い東京都であるが、東京都は全専門学校数約500校のうちの141校である。一方、大阪府は、104校ではあるが、約200校のうちの104である。実は大阪府の認定率が全国で一番高い。理由として、橋本知事の時代に、企業との連携を強化していたためであり、そのシステムを国が模範として、職業実践専門課程としたからである。</p> <p>本校設置学科の認定状況は以下の通り。</p> <p>①認定学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命バイオ分析学科 (平日開講 2年制学科)</li> <li>・有機テクノロジー学科 (平日開講 2年制学科) →令和2年4月から医療医薬分析学科へ変更</li> <li>・資源分析化学科 (平日開講 2年制学科) →2019年度4月入学生で募集停止</li> <li>・健康化学分析学科 (平日開講 2年制学科:令和2年3月認定)</li> <li>・分析化学応用学科 (土日開講 2年制学科:令和2年3月認定) →令和3年4月から化学分析学科へ変更</li> </ul> <p>②今後申請予定の学科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境分析学科 (平日開講 2年制学科:2019年度新設) 卒業生を初めて輩出したので、今年度10月に申請する予定である。</li> </ul>											

&lt;次頁に続く&gt;

日 時	令和2年7月17日（金） 15:00 ~ 17:00										進行	議事録	記録		
出席者	出	出	出	出	出	出	欠	出					渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記							
No.	項 目		審 議 経 過										担当	期限	
4	委員会の位置づけと目的 (前頁の続き)		<p>3) 教育訓練給付制度（厚生労働省）と本校の設置学科</p> <p>雇用保険の被保険者期間が2年間以上あることを条件として、教育訓練給付金が受給できる、専門実践教育訓練給付制度の運用が平成26年10月から開始された。この専門実践教育訓練講座の指定条件の一つが「職業実践専門課程の認定」となっている。</p> <p>本校の設置学科のうち、以下の学科はその認定を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源分析化学科 (平日開講 2年制学科)</li> <li>・生命バイオ分析学科 (平日開講 2年制学科)</li> <li>・有機テクノロジー学科 (平日開講 2年制学科)</li> </ul> <p>この給付金制度を今年度利用している学生は5名となっている。</p> <p>また、職業実践専門課程認定を受けた健康化学分析学科と分析化学応用学科は今年度申請予定である。</p> <p>専門実践教育訓練講座指定状況について、重里校長から以下の補足があった。</p> <p>この指定条件に、「入学者に対する就職率80%をキープしなければならない。」というものある。当然退学させてはいけないということとなるが、それ以外に大学編入学も数に入れることができない。学校としては、大学編入学も進路指導の1つであるため、矛盾が出ている。そもそも民間の教育訓練に対しての施策であり、「就職させる」ということがネックだったため、専門学校での利用にはシステムとして大きな問題がある。</p>												
5	本校自己評価の報告		<p>渡邊副校長より、令和元年度自己評価結果について、以下の報告があった。</p> <p>→資料・令和元年度 自己評価結果報告書        • 2019年度 学校関係者評価委員会議事録</p> <p>1) 専門学校的学校関係者評価のイメージ</p> <p>学校評価は、外部のアンケート等も参考に教職員による評価（自己評価）をPDCAサイクルに基づき実施し、学校自らが選任した学校関係者（業界団体・企業・高等学校・保護者など）による委員会が自己評価の結果について評価を行う（学校関係者評価）。また、学校関係者は教職員と共に理解を図り、自己評価結果の客觀性・透明性を高め、今後の学校運営の改善のための助言等を行う。この評価結果をとりまとめ公表するとともに一定レベルを担保していく。</p> <p>このような主旨をご理解いただき、委員会では教職員による学校評価（自己評価）について忌憚のないご意見をいただきたい。</p>												

## 令和2年度 学校関係者評価委員会

7 - 12 頁

日 時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00										進行	議事録	記録		
出席者	出	出	出	出	出	出	欠	出					渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記
No.	項 目	審 議 経 過												担当	期限
5	本校自己評価の報告 (前頁の続き)	2) 令和元年度 自己評価結果について ①自己評価等のスケジュール ②令和元年度の重点目標 1. 高等教育の修学支援新制度への対応 2. 高大接続入試への対応 3. I C T 化への対応 4. 文部科学省委託事業の受託と化学検定の構築 ③自己評価項目と自己評価結果 • 教育理念・目的・育成人材像 (4項目) • 学校運営 (6項目) • 教育活動 (13項目) • 学修成果 (5項目) • 学生支援 (11項目) • 教育環境 (3項目) • 学生の受け入れ募集 (4項目) • 財務 (4項目) • 法令等の遵守 (4項目) • 社会貢献・地域貢献 (2項目) • 国際交流 (4項目) なお、③の自己評価項目と自己評価結果は、2019年度の結果と評価が異なる項目を中心に説明を行った。 また、この評価項目は文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき策定している。													
6	自己評価についての意見	各委員より、令和元年度自己評価結果に関して、以下の意見が挙げられた（出席委員から事前に寄せられた意見を含む）。 →資料・令和元年度 自己評価結果報告書 • 令和元年度 自己評価結果へのご意見  1) 自己評価項目 「教育理念・目的・育成人材像」 ①理念・目的・育成人材像は定めているか（専門分野の特性が明確になっているか） →3つのポリシー設定、公開、大変素晴らしいことである。 (内田委員) →3つのポリシーの公開は、保護者には理解していただけるかと思うが、高校生には難しい印象を与えるかもしれないと思われる。（重里校長）													

&lt;次頁に続く&gt;

日 時		令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00								進行	議事録	記録					
出席者	出	出	出	出	出	出	欠	出					渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記		
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記									
No.	項 目		審 議 経 過												担当	期限	
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)		2) 自己評価項目 「教育活動」 ①教育目標、育成人材像は、業界の人材ニーズに向けて正しい方向付けができているか →求める人物像、求める資格など企業紹介講座にて説明させていただいており、大変感謝している。また、今年入社の学生さんも頑張っている。(内田委員) ②人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保できているか →これに関して、この項目が「2」となっているのは、昨年度の時点で専任講師が予定人数採用できなかった。ここどころ、求人を出しててもこのような分野に関して、人が集まらない。応募者が減っている。60歳近い方の応募はあるが、非常勤としてはよいが、なかなか高校に近い専任講師として採用は難しい。例えば、先日は専任講師として、他府県の校長経験者からの応募があったさすがに難しい。教員の確保は課題になりつつある。(重里校長)														
			3) 自己評価項目 「学修成果」 ①卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか →様々なボランティアの経験は、他人を思いやる気持ち、自分の自尊心、感謝の気持ちを高めるのにとても有効であると感じる。積極的に意欲的に取り組んでいただきたいと思う。 (内田委員) →献血にすごく参加されていることが素晴らしい。それを学校全体で取り組まれていることは素晴らしい。また、サイエンスフェスタに参加されている学生がいることが素晴らしい。小学生に化学のすばらしさを教えるということは、自身が学んだことを教えることで、子供たちが好きになるという別の効果に気付くことになる。実は私自身が学生時代にそういった経験をして、「自分の知っていることが、こんな風な効果があることを知って感動した。」化学の教師になろうというきっかけとなった。こういったイベントに参加した学生は、単に実験をして結果を考察する以外の経験を得る。きっと何かに生きると思う。またこういった経験が専任講師の人材確保にもつながるのではないか。今後も続けてほしい。 (大原委員)														

&lt;次頁に続く&gt;

令和2年度 学校関係者評価委員会

9 — 12 頁

日 時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00							進行	議事録	記録	
出席者	出	出	出	出	出	欠	出				
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記
No.	項 目	審 議 経 過									担当 期限
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)	<p>4) 自己評価項目 「学生支援」</p> <p>①学生の生活環境への支援は行なわれているか</p> <p>→金銭教育の取り組みは素晴らしいと思う。各種トラブルの予防の講演会、クレジットカード、カードローンなど学生でも気軽にお金のやり取りができる反面、いろんな危険をはらんでいるので、大変だと思うが、今後もぜひやっていただきたい。 (内田委員)</p> <p>→今年度は、コロナのために実施できていないが、消費生活相談員を招待した講演会では、実際にスマートフォンを使用して怪しいサイトを見せていただいたり、年によっては、寸劇でだます役とだまされる役とを演じて、説明していただいたりしている。(渡邊副校長)</p> <p>→実は、20年以上前だが、毛皮の販売商法で学生が被害に遭いそうになったため、こういったことを始めた。(重里校長)</p> <p>②保護者と適切に連携しているか</p> <p>→保護者との連携は、日常の業務もあり大変だと思うが、大学ではこういったことはありえないでの、少しの声かけ、「ちゃんと見ている」の意識付けが保護者としては、何よりありがたいです。(内田委員)</p> <p>→保護者の懇談があるのは、とてもありがたい。年齢的に親がどこまで関わっていいのか難しいので、大変うれしく思っている。 (濱田委員)</p> <p>→うちの学校とすれば、退学や学習意欲の低下の予防は、保護者との連携が欠かせない。退学率4%代というのは、専門学校としては、とても低い値である。学生によっては、学校と家庭とのギャップが大きい学生が多いので、ご家庭の情報が指導にとても必要であり、我々にとっても保護者との連携は欠かせない。コロナ禍で今年はまだ実施できていないが、収束したら実施していく予定である。(重里校長)</p> <p>6) その他</p> <p>→その他何かご意見はないか。(渡邊副校長)</p> <p>①留学生について</p> <p>→成美高校には、外国人枠があり、40名以上、10か国以上の留学生がいる。この3名の留学生のことを知りたい。(大原委員)</p> <p>→本校の3名は、モンゴル台湾、韓国の3名であり、私費留学生である。(渡邊副校長)</p>									

<次頁に続く>

## 令和2年度 学校関係者評価委員会

10 - 12 頁

日 時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00							進行	議事録	記録			
出席者	出	出	出	出	出	欠	出				渡邊 快記	渡邊 快記	渡邊 快記
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	濱田 妙	長田 芽生	重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記					
No.	項 目	審 議 経 過										担当	期限
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)	<p>②良い人材の確保について</p> <p>→理科教員の免許が必要なくても専門学校では、人に教えることができるということをもっと公表するといいと思う。詳細な条件は何か。(大原委員)</p> <p>→専任講師としての条件は、化学系の実務経験4年以上が必要。実務家教員が何割以上いるのかということも職業実践専門課程や高等教育修学支援制度の認定基準となっている。</p> <p style="text-align: right;">(重里校長)</p> <p>→今回3つのポリシーの中で、化学に関すること半分と人間を育てること半分で、正にこれは、我々がやっていることと同じだと感じる。授業で教科を教えるが、それ以上に人間として生き方を教えていくと思う。就職の手前の世代を教えるということでは消費者教育についてなども教えていくことも重要で大切だと思う。本当に私たちの教育と変わらないと思うので、このような生徒、学生とのかかわり方もあるということを教師を目指す若い世代に周知していくことが大切だと思う。それをどうやって行っていくかが大切であり、実務経験があれば教員免許がなくても先生になれるということは、人材確保の良い対策になるのではないか。(大原委員)</p> <p>→本校は日本で唯一の化学の専門学校であり、一般的に「化学の先生」というと、高校の先生か大学の先生という選択肢の中に、「専門学校の先生」という選択肢がなく、出会う確率が少ない。さらに研究をメインに考えられて応募されてくる方が多い。卒業研究はあるが、それは「卒業研究」を通して、人間的な成長を促していくので、就職指導や学生指導に対して、二の足を踏む方が多い。「化学知識」と「人間性」を教える専門学校があるというのを伝えるのは、なかなか難しい。また、サイエンスフェスタに関して、高校の時に3年間参加し、うちに入学後に2年間参加し、通算5年間参加した学生がいたが、昨年度の大坂府実習教員として採用された例がある。ボランティアをしてそういった教える立場に就職した学生がいた。(重里校長)</p> <p>→そういったモデルケースが一つでもあればいいと思う。具体的な策は思いつかないが、教員を目指そうかなという人がいそな所へ、周知する方法があるといいかと思う。(大原委員)</p>											

&lt;次頁に続く&gt;

日 時	令和2年7月17日(金) 15:00 ~ 17:00								進行	議事録	記録		
出席者	出 梅川 雅章	出 内田 敬	出 大原 一浩	出 濱田 妙	出 長田 芽生	出 重里 徳太	欠 尾崎 信源	出 渡邊 快記			渡邊 快記	渡邊 快記	
No.	項 目	審 議 経 過										担当	期限
6	自己評価についての意見 (前頁の続き)	<p>③技能検定（化学分析技能士）実施について  →技能検定がコロナの影響で、前期に中止になったが、後期に実施できることとなった。12月4日（金）から2月21日（日）までに実技試験を実施し、学科試験が2月11日（木・祝）に実施の予定である。（梅川委員）</p> <p>→3つのポリシーの到達目標の中で、技能検定の全員受験全員合格という目標があり、全員受験は達成できるが、コロナのために試験がなくなり危うくなつたが、実施いただけるということで安堵している。（重里校長）</p> <p>④委託事業成果について  →文科省委託事業の件で、e ラーニングを用いて、大変すごいことをされているので、詳細を説明いただきたい（大原委員）。</p> <p>→本校を始めとして、大阪府職業能力開発協会、大阪市教育委員会、また、学校法人福田学園さんなど、3専門学校、そして大阪府立堺工科高等学校、さらには、株式会社三井化学分析センター、株式会社ニプロファーマ、株式会社タツタ環境分析センターといった企業様、公益社団法人日本化学会、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会、一般財団法人日本検定基盤財団で構築した機関で取り組みを始めた。そして、「化学実務に必要な実験技術」、「化学実務上必要な安全管理と関係法規」、「専門実務に必要な化学知識」、「社会課題に対応する高度専門化学」、「化学実務に必要とされる化学基礎」といったテーマを設定し、カリキュラムを作成した。そのカリキュラムをe ラーニングとして、取り組んでもらった。「学習」等項目で、学習動画を学び、「評価試験」を受けてもらうというシステムである。昨年度は、第一回実証講座として、10月15日（火）～11月30日（土）の間に5時間学習するという講座を開講した。続いて、第二回として、e ラーニング 5時間（1月14日（火）～2月14日（金））と集合学習4.5時間（2月17日（月））を実施した。その総括として、第一回、64名、第二回、83名で約150名の参画があり、この化学分野に関して、一度社会人になった人やキャリアチェンジをしたい人に対する学べる場所というのがほとんどないということがわかつってきた。それを今年度も取り組んでいく。ただし、ニーズがあつても、文科省からの補助があるので実施できているが、実際の運営は課題である。（重里校長）</p> <p>→実際に取り組んだ。意外と覚えていなくて、ネット等で調べたりもしたが、一人でやるより動画で先生に教えてもらっているという感覚がよかったです。（長田委員）</p>											

&lt;次頁に続く&gt;

令和2年度 学校関係者評価委員会

12 — 12 頁